

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

留学プログラム名	派遣交換留学		
所属(本学)	理工学研究科 機械物理工学専攻		
現在の学年	修士 1年		
留学先国	シンガポール	留学先大学	南洋理工大學
留学期間	2015年8月3日～ 2015年12月4日		

① 留学先大学の概略

南洋理工大學(Nanyang Technological University, 略称 NTU)

② 留学前の準備

期間に関する計画:派遣交換留学を知った時には学部での留学には間に合わなかったため、修士での留学を決定した。卒業を延期するには抵抗があったので、1学期のみの留学とし、修論・就活は「頑張って何とかする」(?)ことにした。今考えると、1年間留学して、1学期は講義を履修、もう1学期は研究をするというのが一番楽しいと思う。

ビザについて:Student's Pass(学生ビザ)が必要だが、あちらが手取り足取り教えてくれるので、こちらは書類を出したり手数料を支払ったりするだけで良い。

住居について:NTU にはたくさんの寮があるが、家賃の安さからか、それを上回る数の学生が入寮を希望するため、抽選制になっている。当選確率は 50%ほどらしい。私は抽選に落ちたので、自分で住居を探すはめになった(噂では1学期しか在籍しない学生は当選確率が低いとか...)。NTU は貸家情報やルームシェア仲間を募る掲示板があるサイトを開いていたので、掲示板に投稿したところ、返事をもらった。そこから謎のついで、同じく部屋を探していた他の学生(自分を含めて全部で6人)と一緒に、現地で学生向けに物件を紹介する代理店を通して、コンドミニアムの一室を借りることができた。

③ 留学中の勉学・研究

授業の履修のみ。多くの科目が抽選制なので、取りたかった講義のうち幾つかはとれなかったが、学部向けの講義も入れるなどして、1学期に履修できる上限の数の講義を登録した(学部と修士、両方の講義を履修すると、期末試験のスケジュールがきついことになるので、あまりオススメできない)。講義資料はオンラインで公開され、講師から印刷・配布されることはない。言語は全て英語。修士向けの講義は社会人学生のために夜に講義がある。全ての授業が録画・録音されており、オンラインでいつでも見ることができるので、出席している学生は多くて履修登録者数の3分の1以下。また出席している学生でもずっとしゃべり続けていたりするので、意識の高さで言えば東工大の方がずっと上だと感じた。以下は履修した講義について。

Operations Research:確率論から始まり、生産計画や輸送の最適化などについて学ぶ。私は恥ずかしながら確率論が苦手なので、この分野は避けてきたが、解説が丁寧なので特に困ることはなかった。

Manufacturing Automation:前半は生産ラインの効率の計算など、後半は3D プリンティング(格好良く言うと付加加工=Additive Manufacturing=AM)について。後半はただただAMのジャンルの解説だったが、シンガポールは政府がAMに目をつけているらしく、NTUにも1台数億円の機械を多く揃えた研究所があるので、そちらの見学は見応えがあった。

Advanced Material Engineering:修士向け。材料力学の復習から始まり、材料の劣化・破壊力学、複合材料、高分子材料、セラミクスと広範囲をカバーしている。試験範囲が広い上にNTUの試験は記憶力勝負が多いので、かなり厳しかったものの、私は所属研究室の分野が近いので助かった。

Physical Ergonomics in Design:修士向け。人間工学(机やいすの寸法の決め方、作業環境の配慮のしかたなど)について。東工大でとったことのない分野だったので興味深かった。

Advanced Design for Manufacturing:修士向け。製造考慮設計(DFM)について。現場で働く際のノウハウといった感じの内容だったので新鮮だったが、講師のシングルリッシュが最もきつく、喋っている内容の聞き取りに苦労した。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

旅行: 国政選挙で大学が休みになった際にはタイのクラブ、Recess Week(中間休み期間)にはインドネシアのバンダアチエ、期末試験前の休み期間にはブルネイに、それぞれ旅行した。どの国であっても大体 AirAsia が低価格で就航しているので、東南アジアを巡るのには適している。また、国内でも時間を作って、主に歴史に関する博物館を巡るなどをした。

スポーツ: 大学のアーチェリー部に所属し、毎週練習に参加した。他の交換留学生も多く部活動に参加しているので、交友関係を広げるのにおすすめ。また、コンドミニアムが公園とジムの近くにあったため、週に何回かランニングや筋トレに行った。インドネシアへはルームメイトと一緒にいき、現地でダイビングのライセンスを取得した。知り合いの交換留学生でヨーロッパから来ていた人はほとんどが留学中にダイビングのライセンスを取得していたらしい。

その他: ASME Club なるサークル(?)に参加し、現地ベンチャー企業の企業見学に参加した。NTU には企業訪問を企画する団体がいくつかあるため、参加しておくともっと楽しいかもしれない。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

もともと英語のリスニング・スピーキング力の向上を目標の1つとしていたので、家でだらだらしている時もルームメイトと積極的に話すようにしていた。結果として、(文法が多少いい加減でも意外と伝わるのが分かってしまったので、文法力は落ちたような気がするが)、帰国後には研究室の留学生の言っていることが格段に分かるようになっていた。特に東南アジアなまりを難しいと感じなくなっていたのには自分でも驚いた。現在はリスニング力が落ちないように、英語のポッドキャストを日常的に聴くようにしている。

⑥ 留学費用

渡航費: 行きはシンガポール航空の直行便を利用して6万円。帰りは LCC を乗り継ぎつつクアラ Lumpur で1泊、香港で半日観光して5万円弱だった。LCC は早めに予約すると安くなるが、運行時間が頻繁に変更になるため、自分で乗り継ぎを計画しているとルートが破綻する危険性もある。

生活費・住居費: シンガポールは特に家賃が高く、さらにコンドミニアムは HDB(公共住宅)よりも高価なため、3LDK に6人で住んで家賃が 3600SGD とかなり高くなってしまった(これでも安い方とのこと)。ただし交通機関や食費は比較的安く、私は JASSO の奨学金を受け取っていたため、日常的に浪費しなければ厳しい生活を強いられることはない。

その他費用: 派遣交換留学ではあくまでも「授業料を」徴収されないの、NTU の場合は「IT維持費」「期末試験実施費」などの名目で、合計3万4千円ほど現地徴収された。シンガポール国立大学(NUS)に行った友人は支払っていないそうなので、授業料以外にかかる費用は大学によると考えられる。

⑦ 留学先での住居

前述のとおり、大学の寮は抽選落ちしたため、現地代理店を通してコンドミニアムを借りた。家賃は毎月大家さんが直接訪問してきて、現金で支払った。

ルームメイトは同じく NTU に通う学生で、スウェーデン人が3人、ドイツ人が2人(全員男)だったが、専攻やとっている講義が異なったため、大学で出会うことはほとんど無かった。3LDK の部屋に6人なので、2人で1つの部屋に寝ることになったが、特に不便を感じることはなかった。

⑧ 留学先での語学状況

大学の事務、講義、試験は全て英語なので特に不便は感じなかった。シンガポールの公用語には英語が入っているものの、同じ民族同士の日常会話は彼らの言語(中国語やマレー語など)で行われることが多く、自分も何回か中国語で話しかけられた。

留学前の TOEIC は 890 点、TOEFL は 82 点で、講義を受けるのにも日常生活にも不便は感じなかったが、恐らくルームシェアしていた仲間の中では英語力は下のほうだったし、もっと話せるに越したことはない。

シングリッシュは話し相手が「外国人向け」の訛りで話してくれれば何とか聞き取れるものの、ローカル同士での会話は最後までほぼ聞き取れなかった。英語の上手いルームメイトでも、例えば大家さんのシングリッシュはかなり難しいと感じていたらしく、これについては慣れが必要としか言いようが無い。

⑨ 単位認定、在学期間

単位認定を行う予定。在学期間の延長は行わなかったものの、もし過去に戻って留学をやり直すことになったら、1年間の留学を検討していたと思う。

⑩ 就職活動

留学先で就職に関する活動は(現地ベンチャー訪問を除けば)特に行っていない。帰国後は普通に就活に参加するが、海外へ行くことに関するハードルは確実に下がったと感じる。

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

現地には日本食も豊富にあり、買い物に関しては大型のショッピングモールがそこかしこにあるため、特に困ることはなかった。敢えて挙げるとすれば、紙パック式掃除機の替えのパックをメーカーのショップ以外で扱っていないことと、洗濯機の性能が日本のものに比べて非常に悪い(時間がかかる上に途中で止めることができない)ことがストレスだった。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

シンガポールは東南アジアの中でも飛び抜けて発展している綺麗な国で、また年中暖かい(暑い)ため、長期的に滞在するにはおススメの国です。また NTU は比較的新しい大学なので施設が綺麗で、また留学生の受け入れにも積極的なため、シンガポール人だけでも中華系・マレー系・インド系といるところに、さらに多くの国(その大部分がスウェーデンとドイツ)から学生が来ており、様々な民族の人と交流ができます。

私が(大学ランキングでもう少し上にいる)NUSではなくNTUを選んだのは、友人がNUSに行くことになった際に「一緒にいると絶対につるんでばかりになるだろうから別の大学にしよう」と思ったからですが、そんな消極的な理由がなくても、NTUはおススメの大学です。